「全国の高校で卒業記念献血の実現に向けて」

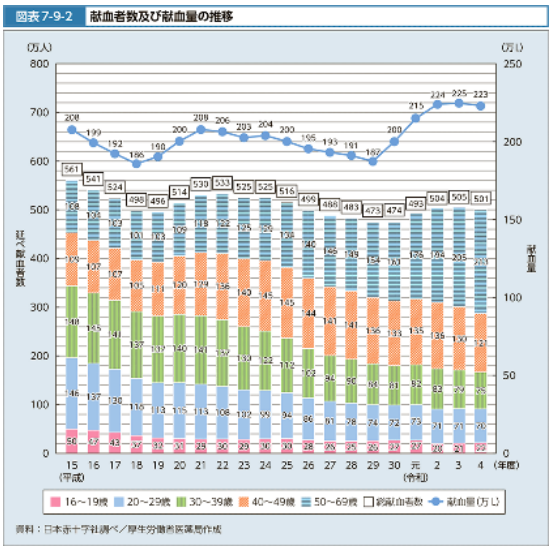
～継続的な献血に向けて、今、私たちにできること～

おかやま山陽高等学校
ユネスコ部 JRC 班

１．全国の高校で卒業記念献血会の実現に向けて

献血の課題は少子高齢化の影響もあり、若い世代の献血者数が年々減少傾向にあり、献血者の高齢化が問題となっていることです。献血には６９歳までという年齢制限があり、献血者の高齢化は献血量の安定的な確保が困難となり、救える命が救えなくなる未来になってしまう可能性があります。これから何年先も継続して献血のできる若い世代の献血者を確保していくことが、患者さんの命を救うためには重要なのです。

そこで、私たちは自校で実施している「卒業記念献血」を全国の高校に広めることで、若年者の献血に対する意識を向上させ、将来必要となる献血量を確保して、救える命を救える世の中にできるのではないかと考えています。



厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/stf/wp/hakusyo/kousei/23/backdata/02-07-09-02.html

２．卒業記念献血を４３年間継続

本校では３年生を対象に 1982 年から「卒業記念献血」を４３年間継続して実施しています。(令和３年度はコロナ感染症拡大のため夏季休業中に部活動有志による献血会に代替)「卒業記念献血」とは、卒業を間近にひかえた３年生を対象に行われている伝統行事です。社会人として巣立つ前に「人生最初の社会貢献」と題して献血の協力を求めています。私たちユネスコ部は、卒業記念献血を行う前に自作のポスターをつくり全クラスに掲示したり、事前に開催される赤十字血液センターの方の講演会で献血の必要性の呼びかけを行ったりして、多くの協力者が集まるように啓発活動を行っています。その成果もあり昨年度はコロナ禍以前の献血者数を確保することができました。献血に対して「思っていたより痛くなかった」という人が多く、そういった声が次の世代への安心材料にもなっています。

献血実施人数		
平成30年度	200ml	43名
	400ml	57名
令和元年度	200ml	42名
	400ml	52名
令和2年度	200ml	71名
	400ml	95名
令和3年度	部活動有志のみ	
令和4年度	400ml	78名
令和5年度	400ml	84名
令和6年度	400ml	93名

３．なぜ、高校での卒業記念献血が有効なのか

高校 3 年生の卒業間近の１月以降に献血を実施すれば、男女ともに１８歳を迎えた生徒数が多くなり、献血(400ml)可能人数をより確保できます。また、献血を卒業記念献血で学生のうちに一度、経験できる機会を提供しておくことにより、２回目以降の献血に行きやすくなり、献血へのハードルを下げることにもつながると考えています。

４．みんなに献血の意義を知って欲しい

【献血とは】

がんや白血病などの病気によって自分で十分な血液を作れない患者さんの輸血や大きな手術の時に使う血液を無償で提供するボランティアのことです。

◎1 日に輸血を必要としている患者さんは約 3,000 人
◎血液は人工的につくることができない。
◎長期保存をすることができない。

そのため、毎日、より多くの人に定期的に献血をしていただく必要があります。

【献血の未来】

現在は、献血者数の大半を 50～60 代の方が占めており、今後 10 年ほど経つと現在の中心層である 50～60 代の方が年齢制限により献血対象外となってしまい、継続的な献血者数の確保が困難になる課題があります。もし、このまま新しい若い世代の献血継続者が増えなければ、輸血を必要としている割合の多い高齢者の数が増える未来では、医療の需要に対して供給が追いつかなくなり、医療崩壊を引き起こす可能性があると問題視されています。

『私たちは、いつ重い病気にかかったり、大けがをしたりして、輸血が必要になるかわかりません。尊い命を救う血液は、人工的に作ることができません。そのため毎日多くの献血者の協力のもと必要な血液が提供され、多くの生命が献血によって救われています。』

（※本校で使用している卒業記念献血の協力依頼プリントに掲載している文章から抜粋）

５．全国の中学生・高校生に伝えたい、私たちができること

世の中がコロナ禍であろうと、暑い夏であろうと、毎日、輸血を必要とされている患者さんがいます。だから私たちも、活動を続ける必要があります。がん患者さんや輸血をされている方との交流をきっかけに、改めて献血が命を繋いでいるという実感を受け、できる限り献血会場での呼びかけに参加しています。

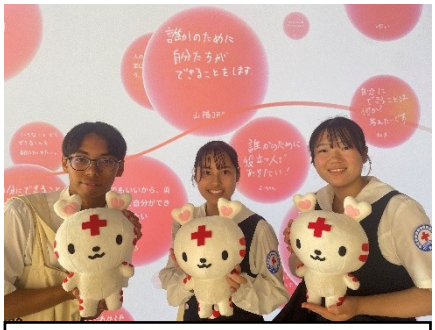
コロナ禍での献血

本校製菓科が献血に興味を持っていただきたいと考え、献血啓発クッキーを製作しました。

１年次は、ショッピングセンターの献血会場で初めて呼びかけを行いました。２年次は岡山大学の学園祭で啓発活動を実施。３年次は、私たちの想いを継続してくれた後輩と一緒に活動することができました。

「献血感謝のつどい」では、病気を患っておられる方から「みなさんの活動のおかげで、私たちは生きていられる」という想いを聞き、自分たちの活動が多くの人の役に立っていると実感することができました。

青少年赤十字（JRC）に加盟している高校生と交流し、より多くの人に献血を広めるため、高校生だけではなく未来を担う小・中学生にまで啓発されている活動に共感しました。そこで、私たちも青少年赤十字に加盟して、ＪＲＣの目標である「気づき、考え、実行する」を実践し、日本赤十字社のネットワークを活用して岡山県だけではなく全国へ、活動の幅を広げていきます。



大阪万博の国際赤十字パビリオン

愛の献血助け合い運動キャラバン隊との交流

私たちは、青少年赤十字に加盟して、ユネスコ部JRC 班を発足して、活動しています。加盟したことで、今まで気づかなかった視点や交流が増え、私たちの活動の幅が広がり始めています。

６．私たち独自の取り組み
（全国の高校で骨髄バンクドナー登録会併行型の献血の実現）

本校では、卒業記念献血と併行して骨髄バンクドナー登録会を 2013 年度から実施しています。骨髄移植も献血と同様にドナーに年齢制限があることから登録者が減少するかもしれないという共通の課題があります。そこで、「若い世代のドナー登録者を増やしたい、まずは骨髄バンクについて知ってもらいたい」と考え、私たち高校生が『骨髄バンク説明員』の資格を取得して、各地の献血会場で骨髄バンクドナー登録推進活動を行っています。令和５年度の卒業記念献血では目標としていた、私たち高校生が自校で開催される献血において、高校生に対する骨髄バンクドナー登録会を実現し、「若い世代の登録者」の増加に向けて一歩踏み出すことができました。

今年の登録会では、高校生説明員１４名が登録説明を行い、３９名が聞いて下さり当日の登録者は２８名でした。
登録は１８歳以上なので、残り１１名は１７歳であったため、誕生日後に献血会場にて採血をすれば登録完了となります。

高校生ボランティア・アワード全国大会（風に立つライオン基金主催）での献血・骨髄バンク啓発活動

全国の高校での卒業記念献血と骨髄バンクドナー登録会の実施の呼び掛けを行い、多くの高校生や先生方に共感し興味を持っていただくことができました。表彰式では長年の取り組みを評価していただき、「国境なき医師団賞」という特別賞を受賞することができました。『人のために行動したい』という共通の想いを持つ全国の高校生と交流できる有意義な経験となりました。

７．まとめ

2021 年９月には、これまでの献血への貢献が認められ、「献血運動推進協力団体等厚生労働大臣感謝状」をいただきました。これは、長年にわたり、献血活動に協力した団体を称えるために、厚生労働大臣から贈られるものです。表彰式には大臣の代理として、浅口市の栗山康彦市長が来校され、本校校長へ感謝状を授与していただきました。

『今しかできないことがある』

「高校生だからこそ、できることがある」、この言葉に憧れて私たちはユネスコ部に入部しました。高校生として何ができるのか、自分は人の役に立てるのか、答えが分からないまま『人のために行動したい』という一心で活動を継続してきました。活動を通して多様な立場、世代の方々と交流するなかで、私たちの活動は確実に人の役に立っていると実感できるものでした。

未来を変化させるには、今、行動を起こす必要があります。今のままでは、献血者の減少は必ずやってきます。全国の中学生、高校生のみなさん『今しかできないこと。あなたにできること』はあります。一人でも多くの人が献血活動に興味を持って欲しいです。全国の高校の関係者の皆様、どうか一度、校内での卒業記念献血の開催をご検討ください。卒業記念献血活動を広めることができれば、より多くの命を救うことにつながるはずです。私たちはこれからも、より多くの方々を笑顔にできるように活動を継続していきます。